

訪問介護 外国人材を活用

高齢者らの自宅に出向き、食事や入浴などを介助する訪問介護の現場で、介護福祉士の国家資格を持つ外国人が活躍し始めている。日本人ヘルパーの不足を背景に、国は、在宅介護サービスに携わることが出来る外国人材の対象を広げる方針だ。高齢者と外国人ヘルパーがともに安心して関われる環境づくりが求められている。

(板垣茂良)

■料理工夫の介護福祉士

「今日のお昼は、冷蔵庫にある豚肉とナスを使って一緒に作りましょう」

4月2日午前、大阪府藤井寺市の一軒家。訪問介護を利用しながら、一人で暮らす女性(85)の自宅で、ベトナム人の介護福祉士、マン・グエン・スアン・ハンさん(34)は、滑らかな日本語で話しかけた。

2017年に来日したハンさんは、府内の専門学校を卒業して介護福祉士の資格を取得。19年に青山ケアサポート(大阪市)に就職した。有料老人ホームで経験を積んだ後、21年から、高齢者宅で行う訪問介護のスタッフとして働いている。

「大勢いるスタッフの1人として働く施設と違い、高齢者と1対1で向き合える」と、在宅ケアの魅力を語る。ただ、洗濯や掃除などと並び、訪問介護の主な業務である調理では苦労したという。

料理の腕を上げるために、励んだのが、弁当作りだ。職場に弁当を持参し、日本人の先輩ヘルパーに味見を

してもらった。だしなど母国にはない調味料の使い方のアドバイスも受けた。

味付けは、訪問先の各家庭で異なるため、利用者によって確認しながら作るように心がけている。利用者から「よく勉強している。日本人好みの味付けになってきた」と喜ばれている。

同社は現在、大阪府と兵庫県の5事業所で、介護福祉士の資格を持つベトナム人計12人を雇用している。訪問介護に従事しているの



訪問先で高齢女性(右)と一緒にナスの肉巻きを作るハンさん(4月2日、大阪府藤井寺市で)

文化・習慣相互理解で円滑に

は、ハンさんら2人だ。

先輩の介護福祉士、小山絵里さん(42)は、ハンさんについて、「利用者の微妙な体調変化に気づける観察力や、理解できないことをあいまいにせずに学ぼうとする性格が、訪問介護に向いている」と語る。

同社では、外国人ヘルパーが担当する場合、利用者やその家族らの意向を丁寧に確認しているという。

■勤務中に祈りの日課

外国人材に訪問介護を担ってもらうには、利用者や

家族が、文化や習慣の多様性について理解しておく必要もある。

インドネシア人の介護福祉士、レストウ・エルマ・ハキキさん(27)は20年から、障害者らに訪問介護サービスを提供する事業所「ぷっくるケア」(東京都)で働く。

主に脳性まひやALS(筋萎縮性側索硬化症)の人たちのケアのため、1軒あたりの滞在時間が朝から夕方までに及ぶこともある。

イスラム教徒のエルマさんにとって、1日5回のお祈りは欠かせない。利用者

だ。

これに対し、「特定技能」や「技能実習」の外国人は、日本語能力や介護の技術が十分とは言えないため、現在は、利用者と1対1になる訪問介護の現場では働けない。

在留資格の対象広げ 増加へ

訪問介護は、担い手不足が著しい。高齢を理由に退職する訪問ヘルパーが後を絶たないうえ、仕事の大変さに見合う賃金を得られないと思われていることも要因の一つだ。

厚生労働省によると、2022年度の有効求人倍率は、介護サービス全体で3・65倍なのに、訪問介護は15・53倍に上る。全国で約106万人(22年)が利用するが、一部の地域

ではヘルパー不足を理由に、事業者が依頼を断らざるを得ない状況も起きている。

人手不足を補うため、厚労省は今年3月、訪問介護に従事できる外国人材について、在留資格の対象を広げる方針を決めた。現在は、「介護」という在留資格を持つ外国人など一部に限られている。「介護」の外国人は、一定期間、日本の専門学校などで学んだり、介護

訪問介護に携わる外国人材は今後増える

2027年度までに従事可能の見込み

特定技能
2万
8400人

技能実習
1万
4751人

すでに従事可能
在留資格「介護」
9328人

※人数は在留資格「介護」と特定技能が昨年末現在。技能実習は昨年6月現在

ない。多くは、日本人職員から指導を受けられる特別養護老人ホームなどの介護施設で就労している。

厚労省は、「特定技能」や「技能実習」の外国人が、27年度までに訪問介護に従事できるようにするため、一定の研修の修了といった条件について議論を進めている。対象拡大に伴い、外国人向けの相談窓口も設ける方針だ。訪問介護の現場で課題となっている、利用者や家族によるハラスメントなどから外国人材を守り、安心して働けるようにする狙いがある。